

6. 表彰

1. 第 28 回ペインリハビリテーション学会学術大会 2024・奨励賞

受賞者: 古賀優之, 前田旺久, 西祐樹, 藤井慎太郎, 森岡 周

演題名: 人工膝関節全置換術患者における疼痛/運動恐怖と膝の運動学的データの関連性

内 容: 人工膝関節全置換術患者を対象に, 膝運動課題を行った際の疼痛/運動恐怖と運動障害について, 交差遅延パネルモデルを用いた時系列の因果関係を分析した結果, 術後 1 週における疼痛強度と術後 2 週のぎこちなさ, 術後 1 週における運動の小ささと術後 2 週の疼痛強度にそれぞれ因果関係があることを明らかにした。

2. 第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024・最優秀賞

受賞者: 宮脇 裕, 大谷武史, 山本雅樹, 森岡 周, 村井昭彦

演題名: 運動主体感の減少が脳卒中後の上肢使用量にもたらす響とは？

内 容: 脳卒中後患者 156 名を対象に, 運動主体感と不快感の分離・評価を実現する質問紙を用いて縦断的な調査を実施した。その結果, 上肢運動障害が重度なほど運動主体感が減少すること, また不快感ではなく運動主体感が上肢使用量に影響することが示唆された。

3. 第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024・優秀賞

受賞者: 赤口 諒, 田中幸平, 大石裕也, 奥埜博之, 森岡 周, 河島則天

演題名: 脳卒中症例の物体把持動作時の予測制御の特性—運動出力発揮・動作安定性との関連性—

内 容: 脳卒中患者 125 名を対象に, 物体把持中の運動制御におけるオンラインの制御(把持力発揮量や動作安定性)とオフラインの制御(予測制御)の関連性を検討し, 予測制御が停滞している患者は把持力の過剰出力と動作不安定性を認める結果を示した。

4. 第 22 回日本神経理学療法学会学術大会 2024・奨励賞

受賞者: 三枝信吾, 尾川達也, 南川勇二, 島田真一, 森岡 周

演題名: 回復期脳卒中患者はなぜ歩行を重要と認識しているか—半構造化インタビュー法を用いた質的研究—

内 容: 回復期リハビリテーション病院に入院中の脳卒中者が歩行で重要と認識している 7 つのテーマを抽出した。面接により患者視点の歩行の重要性を理解し, 歩行に対する包括的なアプローチ方法を検討する必要性が示唆された。